

2020年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493400202	事業の開始年月日	平成21年10月1日	
		指定年月日	平成21年10月1日	
法人名	株式会社 エイジサービス			
事業所名	グループホームせや別荘			
所在地	( 246-0035 )			
	横浜市瀬谷区下瀬谷2-25-16			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	令和2年10月29日	評価結果	市町村受理日	
			令和3年4月2日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的で、のんびり落ち着いた、笑顔あふれるホーム」を目標指針に入居者様の思いを尊重した支援に努めています。窓からは南台の緑が広がり四季折々の木々や草花を眺める事が出来、鶯や鈴虫の音が聞こえる自然豊かな立地に面している別荘風の建物です。陽気が良いと、デッキにてさわやかな風を感じながらランチを食べたり、遠くの公園までドライブなど、毎日の暮らしの中にちょっとした楽しみや変化を取り入れております。近隣の方々や学童保育の子供達との交流を通して一人ひとりが地域の一員として尊重される心安らぐ環境づくりを目指しています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年12月9日	評価機関 評価決定日	令和3年3月22日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、相鉄線「三ツ境」駅からバスで10分、バス停から徒歩3分の住宅地の中にあります。法人は横浜に4ヶ所と東京都目黒区に1ヶ所のグループホームを運営する株式会社です。

<優れている点>

「手についたものは無くさない」方針で、掃除や料理など自宅で行っていたことはやってみる、続けてみることで、残存能力を発掘し維持しています。車椅子の利用者もできるだけ歩くように支援しています。今年はコロナ禍で自粛していますが、年間計画の外出レクリエーション以外にも「思い立ったら出かける」方針の小さな外出で、ポピー畑やひまわり畑、バラ園などにドライブしています。コロナ禍の面会制限の際、面会したい家族の要望に、窓越しで顔を見ながら電話で話す形で再会を支援しています。例年は学童保育の子どもたちと子供の日や文化祭、敬老会で交流しています。今年のハロウィンの交流は自粛し、利用者が菓子を子どもたちに届けています。協力医は月1回の全体往診と個別往診で週に4～5回の頻度で往診しており、訪問看護師と連携し24時間オンコール体制で安心を確保しています。

<工夫点>

利用者の話をしっかり聞いて安心できるように心掛けています。廊下に長椅子が置いてあり、散歩の行き帰りに一休みしたり、利用者同士で話もできます。夜間に眠れない利用者が事務室前の椅子に座ってカウンター越しに職員と話をしてお馴染みさんや、1対1の入浴介助でリラックスして会話を楽しむ利用者の気持ちに寄り添う工夫をしています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームせや別荘
ユニット名	1階 つる

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は事業所の各所に掲示しています。事業所理念は法人の理念とは別でより具体的な内容で職員が共有できるよう努めています。	理念は8年前に職員に行ったアンケートを集約して作り、玄関や事務所に掲示しています。「手についたものは無くさない」方針で、利用者が昔やっていた今も出来る家事を分担するなど、ここで暮らしていると感じる、理念の「家庭的で、のんびり落ち着いた笑顔あふれる」生活を支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩など外出時、ご近所の方と会ったら気軽に挨拶、会話をしています。通りがかりにお花を頂いたりお庭に実る果実を頂いたりなど地域の一員として受け入れて頂いています。	自治会に参加しています。今年はコロナ禍で自粛していますが、例年は自治会の秋祭りや防災訓練に参加したり、小学校の文化祭にも行っています。事業所の敬老会やハロウィンで子供たちと交流もしています。今年のハロウィンは、利用者が菓子を子供たちに届けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議にて事業所の様子などを地域へお知らせしています。現在、新型コロナウイルス予防の為、中止しています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回の開催で自治会、地域包括支援センター、ご家族、入居者に参加いただき意見交換を行っています。現在新型コロナウイルス予防の為、中止しています。	基本的に年6回、自治会代表、地域包括支援センター職員、区役所職員、利用者と家族が参加し開催していますが今年はコロナ禍で開催を自粛しています。「職員の名前がわかるようにしてほしい」との要望に、職員の名前と写真を掲示するなど、意見を運営のサービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	通常、瀬谷区の講習会に参加したり、運営推進会議などを活用して情報の共有に努めていますが現在は必要な連絡は電話にて行い、コロナ感染予防の為、中止しています。	運営推進会議には区の高齢支援課職員、地域包括支援センター職員が参加し議事録も渡して情報を共有しています。行政主催のユマニチュード研修会やエクササイズ研修会、感染対策研修会にも参加しています。コロナ禍で活動が制限される中、電話で情報共有をして関係を維持しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は研修などに参加し、それを内部研修として他の職員に周知しています。玄関、フロアーの出入り口に関しては、事業所前の環境などを鑑みてご家族の了解を得ています。	年1回外部研修を受講する方針です。12月には内部研修で身体拘束・虐待に関する市の自己チェックを全職員が行い、内容について話し合っています。管理者は職員の不適切な言動があった場合はその場で注意を促し、ユニット会議で事例として取り上げ、職員同士でも話し合います。	身体拘束適正化委員会を開催していますが、記録に残していません。議事録として記録を残すことが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修に参加し、事業所で内部研修を実施しています。職員同士、気付きができる関係性に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	関連した研修などに参加した際、その内容をユニット会議で説明し、職員が理解できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に至るまでは管理者、ケアマネージャーが十分に説明させて頂き不安や疑問点のお尋ねにも納得がいくまでお答えしたうえで契約をしていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の際にご家族より意見要望をお聞きする時間を設けています。その内容をユニット会議や専用ノートにて職員が共有できるようにしていますが現在コロナ感染予防の為、運営推進会議を中止しており、電話にてお聞きしています。	玄関に意見箱を設置しています。法人や事業所のトピックスを伝える「別荘だより」と一人ひとりの利用者の生活の様子や写真を載せた「入居者だより」を毎月家族に送付しています。コロナ禍の面会自粛時には利用者と家族が窓越しに顔を見ながら電話で話す形で再会の要望を叶えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のユニット会議を開催し話し合う場を作り、それを管理者がまとめ代表者へ伝えています。	月1回のユニット会議や日頃の会話、申し送りノートで職員の意見を聞いています。買い物が不得手な職員が他の職員と交代し、支援がしやすくなった事もあります。利用者の食事の要望を受け、職員の判断で準備した食材を使ってメニューを変更することもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人ひとりの意見を聞き、事業所内の状況を把握し職場環境・条件の向上に努めています。現場の意見を話し合える場を持ち、管理者がまとめ、事業所本部に届くよう伝えています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員のスキルアップの為、研修費や資格取得の受講料を負担しています。研修内容はユニット会議で報告し共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修を通じて情報交換の場を作ったり、管理者が集まり情報交換を行っていますが、現在は新型コロナ感染予防の為、中止しています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	フェイスシートや基本情報、ご家族からの話をもとに本人が安心して生活できるようなケアに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族、入居者の不安なこと、要望などお聞きし、それに対しての話し合いをして信頼関係を築いていくよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族、入居者双方の思いをお聞きし必要とされている支援を見極め、より良い関係を築いていくよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々に生活の中で入居者ができる家事、レクリエーションなどその日の生活を共に過ごしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	(現在、コロナ禍の為家族との面会を自粛)電話での対応にて、不安、寂しさの解消に繋がるよう努めています。また、令和2年11月より予約制にて感染予防に徹し、窓越しで直接顔を見合いながらの電話を用いた面会を開始しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	(現在、コロナ禍の為)積極的に電話での対応を進め、窓越しの面会や手作りのハガキでの文通を取り入れています。ご家族や友人との関係が途切れないよう努めています。	親類や孫が面会にくる利用者がいます。コロナ禍の現在は、窓越しで顔を見ながら電話で話せるように関係継続の支援をしています。友人から手紙が来る人には、絵手紙での返信で手紙の交流を支援しています。馴染みの理美容院を利用したり家族と墓参りや自宅に帰る人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立してしまう入居者様には声かけなど工夫をして共に過ごせるよう、入居者同士が自然と支え合えるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了であっても家族より相談などあれば必要に応じて支援しています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	感染予防の為、面会が出来ない状態が続いていましたが予約による窓越し面会が出来る様になりました。電話連絡は自由にしていただいています。安全を考えながら本人、ご家族の意向に沿えるよう支援しています。	廊下に長椅子を置き、散歩の行き帰りや気が向いたときに職員と一緒に座って話せるようにしています。夜間に事務所前の椅子に座って職員と話す人や入浴中に見守りの職員と話す人もいます。気づいた思いは、申し送りノートやユニット会議で共有し、理念の「家庭的」支援に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、家族に記入して頂いた個人情報シートや入居者の日常会話の中から情報を収集していきます。現在はご家族に電話でケアプランの説明をする際、現状をお話しすると同時に、以前の様子をお聞きし経過を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	3ヶ月に1度出来る事シートで状態や有する力の変化をみています。日々の過ごし方、特変は業務日誌、個人記録、申し送りなどで現状を把握します。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	プランは3ヶ月毎にモニタリングを行います。毎月現場の職員と会議を行いご本人中心の援助方法を検討します。ご家族、医師、看護師などから頂いた情報を検討しながら、作成しています。	入居時に本人と家族にヒアリングし状況を把握して暫定版介護計画を作成します。入居後1ヶ月間状況を観察して医療関係者、家族の意見も合わせユニット会議で正式版を作成します。本人・家族の同意を得ています。3ヶ月毎に「出来る事シート」でモニタリングし、6ヶ月毎に見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に毎日出来事を記録しています。職員が共有すべき情報は申し送りノートに記載します。1、2階合同の申し送りは現在コロナ感染防止の為に電話での申し送りとなっていますが、1、2階の職員が周知出来る様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ感染予防の為に、本人、家族の面会が、自由に希望どうり行われていない事もありますが一人ひとりのニーズに合わせた対応を心掛けています。電話連絡や本人直筆のハガキ等で近況報告を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今年は高齢者が参加できる行事がコロナ感染予防の為に中止になり、外出の機会を失っている中、近隣公園には毎日散歩に出かけられ、気分転換ができる環境に居ます。植物の変化で季節を感じ楽しんで散歩を続けています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医の内科以外、歯科、眼科、皮膚科の往診を受けられます。整形外科、精神科などは外部の受診となりますが、主治医に相談をし指示があり、紹介状の準備も速やかにして頂け適切な医療を受けられています。	主治医の診察を月2回受けています。1回は全員が同じ日に診察を受け、他の1回は1日1人順番に診ています。主治医は週に4～5回の頻度で来ていますので、体調の変化がある時にはすぐに受診できる体制です。看護師も毎週訪問し、その都度状況を主治医に報告しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師は、1週間書き溜めて置いた記録を基に一人ひとりを回り診て頂いています。処置がある場合にはやり方の指導を受けられます。介護職員では難しい事も依頼に応じて頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時職員が付き添い、状況を医療に説明します。入院中も面会に行き担当看護師に状況を伺い退院前にカンファレンスをお願いしていますが、現在はコロナ感染予防の為、入院先の病院とは電話のみの連絡になっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に看取りの同意書をご家族から頂いています。実際看取りが近くなった際には医療、家族、施設の3者でその後の方針について話し合い納得のいく形で看取りに入ります。	看取りが近くなった段階で、主治医のクリニックで家族と看護師、施設も入って方針を話し合います。改めて家族と看取りの同意書を交し、ケアプランを変更して職員も看取りの体制に入ります。経験の浅い職員もいるため、看取りについて事前の研修をして不安を軽減しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生に備えたマニュアル、緊急連絡網は目に付くところに掲示し、職員に緊急時の対応についてを周知しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、夜間想定火災訓練と日中災害訓練を実施しています。コロナ感染予防の為、消防署への実施連絡を報告し、定期的にすべての職員が関わり訓練出来るよう内容を変え、気づきや反省などを反映させています。	避難訓練は年2回実施しています。屋外への脱出は各階とも建物の両端からスムーズに出られます。また建物から外の道路へも2ヶ所から出られます。水、食料、コンロなどは従来から規定通りに備蓄し、倉庫を増やして感染対策の防護用品なども備蓄しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の気持ちを考え、さりげない言葉かけや対応に配慮しています。	入居時に趣味や生活面でのこだわりなどを聞き取り、普段の会話を通じて情報を蓄積し共有して対応しています。一人でいる時間を大切にしたい利用者には、無理に集団に誘うことは避けています。職員の対応が適切なのかどうかの難しい判断は、その対応には「愛があるか」を判断基準にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	言葉かけや会話の中で、本人の思い、希望を表情や反応で把握し、自己決定できるよう分かりやすい言葉かけを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れはあるが、ご自身のペースを大切にいただき、その日その時を本人の気持ちを尊重し過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問美容を利用して身だしなみを整えるなどしています。男性入居者には定期的に髭剃りの支援をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれの行事にいつもと違ったメニューやお弁当などで楽しんでいただけるよう工夫をしています。	外食が難しい中、できる限り変化を楽しめるようにしています。その日にある食材で予定とは異なるメニューにしたり、お好み焼きで調理の匂いを楽しんだり、気候の良い時は外で食べて開放感を味わえるよう工夫しています。誕生月の少数数で外食にも行けるよう支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入浴後や運動後には水分摂取を欠かさず提供し、一日を通じて食事量も含めて適切に摂取できるよう注意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとりの口腔状態を把握し、声掛けを行っています。介助が必要な人には付き添ってケアをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の失敗がないよう排泄パターンや体調に注意して目配りしています。言葉かけにも配慮して支援を行っています。	日々の健康チェックと排泄パターンの把握により、できるだけトイレで排泄できるように支援しています。病院からの退院時にありがちなオムツの習慣は、適切な支援により早期にトイレで排泄できるようにしています。また、運動と十分な水分摂取、ヨーグルトの提供などで便秘を防ぐよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操、散歩などの運動やヨーグルト、牛乳などを提供し、個々に合わせた排便コントロールを行い便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴前に体調を確認し着脱、洗身、洗髪など無理のない入浴支援に努めています。	入浴は週2回以上です。体調や意向に配慮し1日3～4人ずつ入浴しています。ゆず湯や入浴剤などで季節感を味わいながら、ゆったりした気分で入浴を楽しめるよう支援しています。歌が好きな利用者は歌を歌い、話好きな人からはじっくり話を聞くことができる良い機会となっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様の生活習慣を考慮し安眠、休息ができるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬マニュアルをもとに対応は2人で行い、氏名、日付など声に出して入居者様と確認し服薬をしています。服薬後の確認も徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来る範囲でのお手伝いをお願いしています。それにより日々の生活に張りが出る様に支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の入居者様の状態に合わせて近くの公園まで散歩に行き、季節ごとの花々を鑑賞し楽しんで頂いています。なお、現在はコロナ感染の為、外出レクなどは自粛している状態です。	晴れた日はほとんど近所の公園や付近の散歩に出かけています。外へ出かけられない利用者には、ウッドデッキで外気浴をしたり、玄関先で花を眺めたり触れたりして過ごせるように支援をしています。少人数でポピー畑やひまわり畑、バラ園などヘッドライブにも出かけられるよう支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	定期的買い物に同行していただいています。現在はコロナ感染を考慮して自粛しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望があれば電話をかけて頂いています。季節に応じたハガキを作成し一言添えて手紙を出せるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間であるリビングには、季節感にあった飾り付けを一緒に作成し居心地の良い空間づくりに努めています。	リビングは柔らかな灯りで暖かな雰囲気となっています。壁面に利用者が共同で作った作品を飾り、季節感を出しています。廊下には長椅子を置いて、利用者同士で話ができるよう工夫しています。事務室前の椅子ではカウンター越しに職員と話ができるようになっていて、お馴染みさんができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者同士がリビング以外でも話が出る様に椅子を設置しています。入居者の個々の状態変化に合わせて関係性を第一に考えた席替えやテーブルの配置を工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族に協力をお願いして思い出の物品や写真、飾り物など持参していただき、居室のレイアウトに工夫をしています。	各居室にはエアコン、ベッド、クローゼット、カーテンを備え付けています。その他馴染みのタンスや日用品、仏壇などを自由に持ち込んで、自宅にいる時に近い感覚で生活できる部屋となっています。利用者は毎朝居室の床掃除をして、清潔で快適な生活を維持しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者一人ひとりの出来ること、分かる事、またやりたい事などを職員間で話し合い、入居者の現在の状況に合わせて目印を付けたり物の配置に配慮しています。		

事業所名	グループホームせや別荘
ユニット名	2階 かめ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は事業所の各所に掲示しています。事業所理念は法人の理念とは別でより具体的な内容で職員が共有できるよう努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩など外出時、ご近所の方と会ったら気軽に挨拶、会話をしています。通りがかりにお花を頂いたりお庭に実る果実を頂いたりなど地域の一員として受け入れて頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議にて事業所の様子などを地域へお知らせしています。現在、新型コロナウイルス感染予防の為、中止しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回の開催で自治会、地域包括支援センター、ご家族、入居者に参加いただき意見交換を行っています。現在新型コロナウイルス感染予防の為、中止しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	通常、瀬谷区の講習会に参加したり、運営推進会議などを活用して情報の共有に努めていますが現在は必要な連絡は電話にて行い、コロナ感染予防の為、中止しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は研修などに参加し、それを内部研修として他の職員に周知しています。玄関、フロアーの出入り口に関しては、事業所前の環境などを鑑みてご家族の了解を得ています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修に参加し、事業所で内部研修を実施しています。職員同士、気づきができる関係性に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	関連した研修などに参加した際、その内容をユニット会議で説明し、職員が理解できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に至るまでは管理者、ケアマネジャーが十分に説明させて頂き不安や疑問点のお尋ねにも納得がいくまでお答えしたうえで契約をしていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の際にご家族より意見要望をお聞きする時間を設けています。その内容をユニット会議や専用ノートにて職員が共有できるようにしていますが現在コロナ感染予防の為、運営推進会議を中止しており、電話にてお聞きしています。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のユニット会議を開催し話し合う場を作り、それを管理者がまとめ代表者へ伝えています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人ひとりの意見を聞き、事業所内の状況を把握し職場環境・条件の向上に努めています。現場の意見を話し合える場を持ち、管理者がまとめ、事業所本部に届くよう伝えています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員のスキルアップの為、研修費や資格取得の受講料を負担しています。研修内容はユニット会議で報告し共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修を通じて情報交換の場を作ったり、管理者が集まり情報交換を行っていますが、現在は新型コロナ感染予防の為、中止しています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	フェイスシートや基本情報、ご家族からの話をもとに本人が安心して生活できるようなケアに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の不安や悩み、要望をしっかりと確認できるよう十分な話し合いの時間を設け、希望に沿った支援が出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人やご家族の実情や要望をお聞きし適切な支援を提供できるように努めています。また徐々に馴染めるよう可能な限り柔軟な対応を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の出来る事や得意なことを生活の中で生かせるような声掛けを工夫し共に支えあえるような関係を築くよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍で十分な面会ができない中、不安や不穏になる入居者様にはその思いに寄り添いながら少しでも安心できるようなケアを心掛けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、友人との手紙や電話等のやり取りを気軽に行うことで大切な関係を継続していけるようにしています。また感染予防に徹した窓越しの面会を実施し、ご家族様にも施設へ足を運んで頂ける様ご案内しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	生活の中で馴染みの関係が作れるよう職員が間に入り関係性を把握し、日々の生活で支え合えるよう見守り支えています。距離を保ちつつ、孤立してしまわないよう話の場を設けたり、散歩の組み合わせなど工夫しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了であっても家族より相談などあれば必要に応じて支援しています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	感染予防の為、面会が出来ない状態が続いていましたが予約による窓越し面会が出来る様になりました。電話連絡は自由にいただいています。安全を考えながら本人、ご家族の意向に沿えるよう支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、家族に記入して頂いた個人情報シートや入居者の日常会話の中から情報を収集していきます。現在はご家族に電話でケアプランの説明をする際、現状をお話しすると同時に、以前の様子をお聞きし経過を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	3ヶ月に1度出来る事シートで状態や有する力の変化をみています。日々の過ごし方、特変は業務日誌、個人記録、申し送りなどで現状を把握します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	プランは3ヶ月毎にモニタリングを行います。毎月現場の職員と会議を行いご本人中心の援助方法を検討します。ご家族、医師、看護師などから頂いた情報を検討しながら、作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に毎日出来事を記録しています。職員が共有すべき情報は申し送りノートに記載します。1, 2階合同の申し送りは現在コロナ感染防止の為に電話での申し送りとなっていますが、1, 2階の職員が周知出来る様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ感染予防の為に、本人、家族の面会が、自由に希望どうり行われていない事もあります。一人ひとりのニーズに合わせた対応を心掛けています。電話連絡や本人直筆のハガキ等で近況報告を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今年は高齢者が参加できる行事がコロナ感染予防の為に中止になり、外出の機会を失っている中、近隣公園には毎日散歩に出かけられ、気分転換ができる環境に居ます。植物の変化で季節を感じ楽しんで散歩を続けています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医の内科以外、歯科、眼科、皮膚科の往診を受けられます。整形外科、精神科などは外部の受診となりますが、主治医に相談をし指示があり、紹介状の準備も速やかにして頂け適切な医療を受けられています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師は、1週間書き溜めて置いた記録を基に一人ひとりを回り診て頂いています。処置がある場合にはやり方の指導を受けられます。介護職員では難しい事も依頼に応じて頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時職員が付き添い、状況を医療に説明します。入院中も面会に行き担当看護師に状況を伺い退院前にカンファレンスをお願いしていますが、現在はコロナ感染予防の為、入院先の病院とは電話のみの連絡になっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に看取りの同意書をご家族から頂いています。実際看取りが近くなった際には医療、家族、施設の3者でその後の方針について話し合い納得のいく形で看取りに入ります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変、事故発生時に備えたマニュアル、緊急連絡体制や救急車の呼び方マニュアルをすぐにみられる場所に配置しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、夜間想定火災訓練と日中災害訓練を実施しています。コロナ感染予防の為、消防署への実施連絡を報告し、定期的にすべての職員が関わり訓練出来るよう内容を変え、気づきや反省などを反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様一人ひとりの性格、今までの生活環境に配慮し、失礼がないよう心掛け対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個人的、または集まって話をしている時も話しやすい雰囲気作りが出来るよう心掛けています。表情などから本人の気持ちをくみ取り自己決定しやすい声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	レクリエーションに参加したり居室で本を読まれたり、休まれたりとご自分のペースで過ごしていけるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問美容では本人の希望を伝えていきます。馴染みの美容師さんが希望の時は順番を調整したり、毎日鏡を見る機会があるよう誘導し、気分が良くなるような声かけをしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや洗い物をレクリエーションとして会話を楽しみながら職員と一緒にしています。野外ランチ、お店のメニューからお好きなものを選び召し上がって頂く日を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事量と水分量を個別に記録し、一人ひとりの量や栄養バランスを考え支援しています。必要摂取量が満たない時は調理の工夫をしたり、水分が取れない方には少量でもこまめに提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、声掛けし、個々の状態を把握しながら、汚れがないか確認しています。義歯は夜間に預かり消毒します。週1回、訪問歯科診療にて治療や口腔ケアを受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表の記入をして、時間が空かないよう声掛けやトイレへ誘導しています。排泄の失敗がないよう声掛けし、出来る所は見守りにて自立を目指し支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄表に記入し、個々のパターンを把握します。医師に相談しながら水分量や食物繊維を多く摂り運動を取り入れ工夫しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴前にバイタル測定を行い体調や気分により時間を変えるなど配慮しています。ご自身で出来る事を尊重しながら介助支援しています。ゆったりした時間にコミュニケーションをとりながら楽しく入浴できるよう心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、散歩や体操など体を動かす活動を取り入れています。ご本人の体調や状況を考慮しつつ、休息や昼寝など自由にベッドで休めるよう必要に応じて声掛けしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の薬がすぐ調べられるよう薬情を見やすい位置へ保管しています。服薬マニュアルに沿って誤薬がないよう服薬前読み上げ確認を2回、また本人にも確認して頂き服薬を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節ごとに旬の食材を使って食事作りをしたり、カラオケや塗り絵など達成感と張り合いのある生活を楽しんで頂けるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	公園や遊歩道を活用し、季節を感じて頂けるような散歩コースを選んでいきます。一人ひとりの体調やペースに合わせて工夫をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ感染予防の為、買い物に出かけられませんが、本人に希望をお聞きし、職員やご家族が代理購入でお渡しできるよう支援しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	レクリエーションで手作りスタンプを押したハガキを作りご家族様や友人へ出したり、会話をすることで安心して頂けるよう電話を活用し、繋がりを持つよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	混乱や転倒時事故につながるものがないか、安全に過ごして頂けるように配慮しています。季節に合わせた作品などを飾り工作レクリエーションにも取り入れる工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでは入居者同士お話されたりテレビを見られる方が快適に過ごされるよう席の配置をしています。スタッフルームの前に椅子・廊下にベンチを設置し、壁飾りや写真を見たり職員と入居者同士が会話をしやすい空間を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族・本人と相談し、使い慣れた家具や思い出の物を配置しています。ご自身で作るカレンダーや花の塗り絵を居室に飾り、温かみのある居室になるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	車椅子の方でも動きやすい同線の確保をしています。入居者一人ひとりの「出来る事シート」を活用し共有しています。声掛け・見守りをしながら家庭にいるような生活が送れるように支援しています。		

2020年度

## 目標達成計画

事業所名 グループホームせや別荘

作成日：令和3年 3月 31日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束適正化委員会の開催記録を一か所にまとめて残していない為、わかりづらい。	ユニット会議や運営推進会議の記録以外で、身体拘束・虐待適正化委員会のファイルにて管理できるようにわかりやすくまとめる。	会議ごとに別に議事録として記録を残していきます。ファイルを作成し、明確に閲覧できるようにまとめていきます。	3ヶ月
2	35	災害時の備品の置き場所が、実際に使う場所と離れていて想定する場所に保管できておらず、わかりづらい。	実際に避難する人の流れを把握し、必要な物を必要な場所へ保管できている。	屋外へ避難した際の使用する物品は外の備品庫へ移し、屋内へ取りに戻らず使えるよう移動します。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月